

**オピニオン****医療のアメリカ化を防げ**

西区支部 藤丸俊樹

グローバルスタンダードとか、グローバリゼーションという言葉が盛んに使われて久しい。その一方でグローバルスタンダードというのはアメリカンスタンダードではないかという意見も強くなってきている。

経済においても、アメリカは自由な競争を世界に拡大することが、正義と考え皆を豊かにすると、その考えを各国に押しつけて来た。しかしそのやり方は、ヘッジファンドなどの巨大な強者を作り、弱小国の経済を破壊したように、弱肉強食による国家間、個人間の貧富の拡大を生じている。

同様な問題は医療にも生じてくる。アメリカは確かに世界のトップを走る勝れた医療レベルにある。だがそこには幾つかの問題点がある。一つは日本のような健康保険制度が無いため、何らかの医療保険に加入していない人が16%もいることである。経済力の格差により、高度な医療を受けられる人がいる一方で、最低の医療も受けられない人々もいるのである。

次にマネジド・ケアの失敗である。DRG/PPSやマネジド・ケアによって医療費の抑制を試みながら、日本の2倍近い対GDP比がかかっている。それにもかかわらず、アンケートによる満足度は日本やヨーロッパ諸国に比べて非常に低いのだ。

三つ目に医学の進歩が経済活動、利潤の追求にあまりにも利用され過ぎることである。アメリカは世界中の植物の遺伝子を集め、ゲノムの解析も民間会社が熱心に行った。すべて営利目的に継げようとしているのである。遺伝子診断や治療、移植や生殖医療などが無制限に開発され、倫理や哲学と共に考えることがおろそかになっている。宗教ですら彼らに言わせると、こ

のような事が可能になったのは神が望み、許したからだという言い分になってしまうのだ。身長175cm以上でスタイルの良いハーバード大学女子学生に対し、卵子一個5万\$で募集している。(そこには性格が問題にされていないのだ!) 経済力の格差によって医療や教育の格差が拡大し、金持ちが優秀なゲノムを残すことすら、ビジネスになっているのだ。

かつて移植の実験に加わりながら、膨大な医療費や平等性を考えると、これを無限に進歩させることが全面的に善いことなのかと、複雑な心境になったことがあった。医学の進歩で、不可能が可能になると必ず、やってみたい医師と、やって欲しい患者が生まれる。人間の欲望は際限なく、経済の発展や利便性の追求が、地球環境の破壊や温暖化をきたし、ゴミ処理の問題やエネルギーの節約など制限をする生活が求められるようになった。同様に無制限な医学の発達を医療に持ち込むと、医療費は膨大となり、医療保険制度も破綻する。医学の発達はその有効性、効率性、倫理性から選択して医療に取り入れるべきであり、経済力のある人間だけが高度医療を受けるような混合医療も考えものである。

一方インフォームドコンセントが強く主張され、パターナリズムはいけなしいわれてきた。しかしこれも最近では、患者さんの話を聞くとアメリカナイズされることが誤まって理解されている気がするのである。いかにもきちんと説明したと難しい用語を並べ、機械的に書類を渡され、書類にサインさせられたが、さっぱり解らず、どの方法を選ぶかと言われて困ったというのである。自己判断できる自立した人ばかりではないのだから、ある程度は専門家とし

て解り易く、リードしてあげる必要があるのではないか。フランスではアメリカほど書類や法的な手続きを取っていないか、丁寧な説明や人間関係を深くもつことによって訴訟が少なく、満足度も高いとフランスの医師が言っていた。

アメリカは多民族、多宗教の集まりであるから、法律でしかまとめ難いことはわからないでもない。しかし我々は法律だけでない繋りや理解をし合う社会でありたい。

私はもちろん、アメリカのシステムや医療を全て否定している訳ではない。非常に優れた部分は大きいにある。だが我々が真に求めるべきは住み良い社会であり、満足感の得られる人生で

ある。月や火星へロケットは飛ばせなくても、電車や新幹線が正確に、安全に走ってくれば十分では無いか。高度先進医療の臓器移植や遺伝子治療で救われる生命も一つの生命であり、救急患者の迅速で、たらい回しのない対応で救われることや、うつ病の患者を丁寧なカウンセリングとわずかな薬で自殺しないようにすることも同じ一つの生命である。

高度でありながらフラストレーションやストレスの多い医療より、吾唯足知といった東洋的な考え方で、地に足の着いた地道で満足感の強い医療システムを追求すべきと考える。

(藤丸外科・整形外科医院)

### 〈札幌医通信投稿に当たってのお願い〉

#### 1. 投稿内容について

個人を誹謗・中傷したもの、内容その他が掲載に支障があると広報委員会で判断した場合は、加筆、訂正、削除等を求めることがあります。掲載の採否は広報委員会・広報部にお任せ下さい。

#### 2. 掲載号について

毎月の広報委員会において決定いたします。

#### 3. 投稿枚数について

1回の投稿は原則として2ページを限度とします。長文現行および連載ご希望の方は、あらかじめ広報部までご連絡ください。

札幌医通信原稿用紙(21字×12行)で

1ページ(1428字) 5枚半以内

2ページ(3192字) 12枚半以内

・ご希望の場合は札幌医通信原稿用紙(21字×12行)をお送りいたします。

・ワープロを使用した場合は1行を21字に

設定して下さい。

#### 4. 原稿の体裁等

1) 横書きといたします。

2) 引用分以外は、当用漢字、現代かなづかいを使用してください。

3) 明らかな誤字、脱字等は広報部で訂正し、著者校正は原則として1回といたします。

4) 別刷りが必要な方は事前に広報部へお申し出ください。(実費がかかります)

5) 原稿は原則として返却はいたしません。

#### 5. 原稿送付先

〒060-8581 札幌市中央区大通西19丁目  
札幌市医師会館

札幌市医師会 広報部

TEL (011) 611-4181

FAX (011) 611-8608

投稿原稿は必ず広報部を経由して下さい。